

2023年4月1日

2022年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 東大和市レクリエーション協会

代表者・役職名 氏名 会長 飯坂 徳雄



▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

無料学習塾「賢治の家」

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

私どもの団体はレク指導者の養成を中心に活動してきました。2007年4月に「ペタンク愛好会」や「布あそび」「大道芸愛好会」等が連合して「東大和市レクリエーション協会」を設立しました。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

本協会は遊びとレクリエーションで市民社会の活性化を目的としています。ただし現在の子どもの状況から学習支援や居場所支援とリンクしながら進めています。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

経済的な理由で商業的な塾に通えない小学生、中学生対象の学習塾です。授業形式で学習支援を行うこともあるが、個別に対応する時間を多くしてよりきめの細かく生徒を取り巻く状況に対処している。教科は小学生全科、中学生は英語と数学です。定員は全体で20名です。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

【年間当たりの実施回数】

波状的に新型コロナの感染は収まらず8月段階の東京は一日3万人も超える日もあり「賢治の家」も臨時の休塾を考えながらも開催を続けた。

その結果年間60回の開催予定が53回(都立入試特別講座3回を含む)となり、また新規募集をしないで昨年より登録してあるものだけで継続した。講師は6人体制で行い、一部、電話でも対応した。

在籍数は16名で、年間当たり 中学生12-14名、出席は延べ合計627名の参加でした。(入試対策会と652名)

【成果】昨年よりコロナには子どもも慣れてきたが、落ち着かない1年であったことは変わりありません。そこで、学習環境を提供することで少しでも「学習習慣」をおとさないことを心がけて支援した。特に定期テスト対策に力を投入して学習の動機付けを図った。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

3年生4名が希望した高校に全員合格した。中学1、2年生に対しては定期考査対策を重点的におこなった。特にコロナ禍の為学校毎に定期考査はずれていたため模擬テスト指導を学校毎に合わせて行った。また、コロナ禍にも対応できるオンラインの開発は今後の課題である。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、「必ず」、別途、ご提供ください

実施状況

東大和市レクリエーション協会の「無料学習塾賢治の家」



4月15日 個別指導



6月17日手前に定期考査対策のプリントが置いてある



6月24日 英語の課題解説



水分補給もしました



8月26日 個別指導



10月7日 個別指導



12月9日 授業の合間にあげるミカン



1月13日 個別指導